

Book Review

《眼科臨床エキスパート》 角結膜疾患の治療戦略 薬物治療と手術の最前線

吉村長久, 後藤 浩, 谷原秀信 シリーズ編集 島崎 潤 編

眼表面は細隙灯顕微鏡で最初に観察する部位であるため、誰でも眼表面疾患の異常所見は目にしているはずである。典型的な所見・疾患は、自信を持って診断・治療ができるものの、実際には確定診断に至らない症例も多いのではないだろうか？ 眼表面疾患は角膜・結膜という二つの組織の異常状態ではあるものの、その原因はさまざまである。眼表面を覆っている涙液の異常、外界にさらされているための外的要因、感染症、免疫異常、変性症、眼瞼異常など眼表面疾患に及ぼす因子は多岐にわたり、それらが単独または複合的に影響して病態を形成している。眼表面疾患診療の醍醐味は、所見からどのような因子が影響しているか推測しながら治療戦略を立てることにある。

このたび発刊された、島崎潤先生編集の《眼科臨床エキスパート》『角結膜疾患の治療戦略——薬物治療と手術の最前線』は、治療戦略との題名があるが、正しい診断をした上で、治療戦略を立てるといったコンセプトで構成されており、治療戦略を立てるまでのプロセスが詳しく解説されている。

第1章の総説では、角結膜組織の機能についての基本的な説明がなされ、その機能が破綻した場合の病態、そしてその治療概念について解説がなされ、第2章以降がスムーズに理解できる序章となっている。

第2章は、診断に必要な検査方法が取り上げられている。近年、眼表面検査機器の発達が目覚ましく、診断能力も飛躍的に向上してきた。本章では各検査のスペシャリストが最新の検査機器、コンセプトを

多くの図説を交えて詳しく紹介しており、本書を片手に自らが検査を行い、検査結果が判定できる流れにまともっている。

そして第3章では結膜疾患、第4章では角膜疾患を病態別に専門家はその概念を説明し、薬物治療、外科治療についてなぜその治療が必要か、効果があるのか詳細な解説を行っている。日常診療で遭遇する症例に対して、どのような治療戦略を立てればよいか導き出せる構成となっている。項目間には最新の話題が盛り込まれており、新たな疾患概念や治療方法がアップデートできるよう工夫がされている。

また、手術手技についてはWeb動画が閲覧可能であり、基本的な手術手技から最新の手術手技まで23の動画が掲載されている。そのどれもが手技のポイントが簡潔にまとめられた動画であり、本書を購入すると付いてくる一度で二度おいしい付録となっている。

編者が「序」で書かれているように、本書は「角結膜疾患を一から学びたい」「治療に困っている角結膜疾患がある」「角結膜疾患の知識をアップデートしたい」と思っている人に最適の書籍ではないだろうか。本書を手にとると、診察台から手放せない一冊になるはずである。

愛媛大教授・眼科学
白石 敦

B5 頁424 2016年4月
定価：本体17,000円＋税
[ISBN978-4-260-02504-1] 医学書院刊